

1. 研究課題名

内視鏡的逆行性膵胆管造影およびその関連手技における胆管深部挿管成功率および偶発症の検討

2. 試料・情報

(1) 利用目的

ERCP 関連手技は内視鏡検査の中では特に難易度も高く、早期偶発症も 10%程度と多いことが知られています。早期偶発症の中でも、特に急性膵炎 (ERCP 後膵炎) は頻度が高く、重症化すれば長期の入院が必要となります。

本研究は、ERCP における胆管挿管法、十二指腸乳頭に対する処置別による偶発症および治療成功率への影響の検討を行うことにより、ERCP 後膵炎の発症を軽減させることを目的としています。

研究期間は承認日から 2028 年 9 月 30 日 までです。

(2) 利用項目、提供方法

本研究は、1992 年 6 月から 2028 年 9 月の間に、診断治療目的に ERCP を受けられた方の診療記録を利用して行います。利用する情報は、年齢、性別、併存疾患、ERCP 時の所見、血液データなどで、利用を開始するのは、本研究が承認された日以降です。

本研究は多機関共同研究 (研究代表者: 高原 楠晃 所属: 東京大学医学部附属病院消化器内科) であり、当センター (院長 中島淳) は東京大学医学部附属病院 (研究代表者: 高原 楠晃) に、診療記録から得られた情報を提供します。その際、個人を識別できる情報は削除いたします。

(3) 利用する者の範囲

日本赤十字社医療センター 消化器内科 伊藤由紀子 (研究責任者)
多機関共同研究の参加施設については別紙参照ください。

(4) 管理責任を有する者の名称

日本赤十字社医療センター

3. 参加を希望されない場合等

本研究への参加を希望されない場合や本研究参加についてのご相談がある場合は、以下へご連絡ください。本研究への参加を希望されない場合でも、不利益を被ることはありません。

4. 問い合わせ先

日本赤十字社医療センター

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22

TEL : 03-3400-1311 FAX : 03-3409-1604

担当 : 消化器内科 石田 宏太・吉田 英雄
